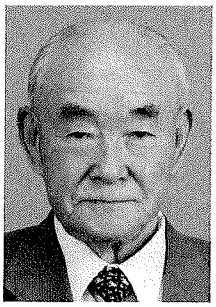

巻頭言

ポイ捨てが大問題を引き起こす

全国農村教育協会　会長　**廣田伸七**

今年の夏（平成23年8月），東京のど真ん中，観光名所の皇居の二重橋がかかっているお堀で異様な光景が見られた。皇居のお堀に数隻の船や浮船を浮かせて，大勢の観光客の目の前で数人の人がせっせと藻を刈り取っている。

今年の夏，皇居のお堀にツツイトモという水草が大発生し，観光客から見た目が悪いと，苦情があいついで寄せられたので，8月9日からこの藻の刈取りが始まったのである。この状況は新聞でも大きく取り上げられた。このツツイトモという藻は環境省のレッドデータブックに絶滅の危機が増していると登録されている植物である。この絶滅危惧種という希少植物が何故皇居のお堀で大発生したのか，専門家の話として「絶滅危惧種Ⅱ類にランクされているツツイトモが，皇居のお堀に大繁殖する事態に至った理由については非常に難しい，天候とか水温，水質，あとは他の生き物といったものが複雑にからみ合って，たまたまこういう結果になったと思います」。と話している。この刈り取り作業は4日間行われ，刈り取ったツツイトモの合計は6～7屯と新聞報道されていた。皇居のお堀には水鳥がよく飛来するが，水鳥が運んだか？・・・・或いは誰かがポイ捨てしたのが原因か？・・・・

最近はこうした水草や外来雑草が持ち込まれて問題になっている話がよく聞かされる，例えば2002年に岡山市や備前市の湿地に，在来のモウセンゴケよりも葉柄が長いナガエモウセンゴケという外来のモウセンゴケが繁殖していることが確認されたが，これはマニアが意図的に植えたものといわれている。これが以前からここに生育していた，在来のモウセンゴケと交配して自然交雑種ができていると報告があり，遺伝子撹乱が心配され，多大な労力を投入して外来食虫植物の除去活動が行なわれている。

つい最近では愛知県の渥美半島でハビコリハコベが問題になっている。これは最近熱帯魚飼育が盛んで，水槽の眺めをよくするためにいろいろな水草が利用されているが，水槽の前景を飾る植物として人気が高い，グロッソの名で流通している外来の水草がある。これが愛知県の渥美半島に帰化し定着しているのが確認されている。グロッソは水槽でも成長が早く，短期間に水槽の前景を緑色に被うことができるので人気が高い水草である。これが渥美半島の1周2kmぐらいの用水の調整池に，池の岸ほぼ全周に広がり，水際の干上がった地面や浅い水底をびっしり覆い尽くして小さな白い花を咲かせているのが確認された。

グロッソそのものは小型の水草で，他の植物の生育には影響を与えるとは思われないが，地下茎を出して短期間に増殖し，密生したパッチ状群落をつくるので，生態系に及ぼす影響は大きいと考えられている。そこでこの水草の野生化を報告された瀧崎吉伸氏は，栽培された水草を野外に放ってはいけないことを知ってもらうために強烈に印象付ける和名をこの水草につけたいと考え，グロッソの和名としてハビコリハコベ（*Glossostigma elatinoides*(Benth.) Benth. ex Hook. f.)〔ゴマノハグサ科〕と定めたとしている。

（日本帰化植物写真図鑑第2巻より抜粋）

このように水草に限らず，外来植物を捨てるときは焼却するなど他に害を及ぼさないよう確実に処理しないと大問題になることを深く肝に銘じてもらいたい。